

## 第四十七回 病気と歯の関係 (2)

首の骨の後方湾曲は体のうっ血状態、つまり体全体がむくんだ状態の事です。

血流が悪い為に体全体が異常を訴える人もあれば、顎関節だけの場合とか、腰の腰椎の骨がズレ・捻れがそれ程ひどくなくても腰のあたりが痛い(ひどくなると少しのあお向けで寝るだけで腰が痛くなる)、足がダルイ、とか足の裏が痛いとか、神経痛とか。

これらの症状を打消すには顎関節症を治して頭蓋骨の捻れ・ズレをとる為に歯の咬み合せで頭蓋骨のバランスの調整をしなければなりません。

ただ、上の歯と下の歯が咬めれば良いということではありません。歯の咬み合せのバランス調整は頭の大脳の反応から足先迄の反応、つまり体全体の反応を読みとりながらちょうせい調節するものです。

この様にして、首の骨の直、又は後方湾曲を修正して血流がよくなるだけでなく、脳脊髄液の流れも正常になり、脳脊髄の3大症状である認知症、歩行障害、尿漏れ、等も予防又はそれ以上悪くならないようにするものです。

以下病気と歯との関係を述べます。

肺が悪いと手の甲又は足の甲及び肩、さらに足のつけ根の股関節に異常反応をおこすものです。但し片方の肺だと、すべて同側の片方になります。そして、首の骨は上から2番目の骨、背骨だと3番目の骨にズレをおこすものです。

心臓ですと、肺と重複するところは肩と股関節だけですが、更に横隔膜(みぞおち)が上へあがり逆流性食道炎の様な症状をおこすものです。

股関節が異常をおこしますと、足のヒザにも影響をおこすこともあり、時には運悪く肝臓、脾臓に影響を引きおこす事にもなりかねません。

肝臓は右の腕のヒジ、足のヒザに異常反応、脾臓は左のヒジ、ヒザに異常反応をおこし、胃は足のつけ根から足のヒザの前寄りの筋肉又は肩から腕のヒジ迄の前方の筋肉に痛み、又は異常反応をおこすものです。

但し右寄りの胃なら、右側だけです。

小腸は胃の丁度裏側の筋肉(おしりの下の筋肉からヒザ迄)に痛みをおこすものです。但し右側だと右側のみです。

脾臓の反応は足のフクラハギ又は腕のヒジから手首迄の内側又は後側の筋肉に異常をおこすものです。

大腸はその脾臓の反対側、つまり表側に反応するものです。

腎臓は手首、足首に異常をおこし、副腎は足のアキレス腱のあたりに異常をおこし、片側の乳房はおしりの片側の筋肉、又は片側の足の裏がむくみ、又は頭蓋骨の片側だけが上に膨れ血流が悪くむくんでいる事です。(背骨との関係は第 35 回歯と病気を参照)

そこで歯との関係を例にあげますと、胃は首の骨の上から 3 番目の骨、背骨では上から 5 番目の骨と関係があります。

右寄りの胃に異常をおこしますと頭のテッペン骨である頭頂骨の右寄りでもなし、後でもなし、中間位に異常反応をおこしているものです。

その位置が膨れていますと右の歯の真中あたりの歯が高いことを意味します。

へこんでいますと、歯が低いことを意味します。

そして胃と関係のある首の骨 3 番、背骨の上から 5 番目の骨は関係のある片側の頭頂骨が膨らんでいますと、これらの首の骨・背骨は反対側に回転ねじれをします。

片側の頭頂骨がへこんでいますと、その側の骨は前方回転ねじれをおこすものです。

左右の同じ位置の頭頂骨が膨らんでいますと、それと関係のある首の骨・背骨は回転・捻れではなく、その部分だけ後方へズレ、歯も左右同じ位置の歯が他よりも高すぎますということです。

又、その逆で左右の同じ位置のが低いと首の骨、背骨の骨は前方にズれることです。

そして胃ですと足の指も手の指も、真中の中指か薬指に異常反応をし、その側の歯の咬み合せが高いと 5 本の指のうち、その部位と関係のある足の指・手の指の関節部分のスキ間が大きくなり伸びた状態になります。逆に歯の咬み合せが低いと手足の関節のスキ間が狭くなるものです。又、片側の歯の咬み合せが高いと反対側の手のヒラ足の裏に異常をおこし、低いと反対側の手・足の甲に異常反応をおこすものです。

右寄りの胃が悪いと左側の足の裏の土踏まず、又は土踏まずの反対側の足の甲に反応が出ます。(多分奥歯でもなし、前歯でもなし、中間位の位置)

但し、噛み合せが高い場合は土踏まず側、噛み合せが低い場合は土踏まずの反対側の足の甲に痛み又は異常反応が出ます。

この様に急性の病気の場合を除いて、慢性の状態になれば薬で血流をよくするのではなく、自分の力で血流を正常にしなければ、いつまでも病気が治らないで慢性の状態が続くものです。

車のラジエータに水の流れが悪いとオーバーヒートするように人間も同じです。